

変形性関節症とは、クッションである関節内の軟骨がすり減っている状態をいいます。関節に痛みが生じ、活動が困難になってきます。変形性関節症は手や足、背骨、腰、膝など身体のあらゆる部分の関節で発症します。**足関節に発症した場合は変形性足関節症**となります。



変形性足関節症が起こる原因

軟骨が磨耗することが原因と考えられ、軟骨は徐々に薄くなり、骨はそのクッションを失う為次第に骨同士が当たるようになって関節の痛みと炎症を起こします。

捻挫や骨折などの外傷により生じる場合や、足関節がゆるい場合、感染などを伴って生じる場合、明らかな原因が無い場合などもあります。

主な症状

症状には以下のようなものがあります。

- ▼関節の痛み（歩行時に増悪）
- ▼関節周囲の腫れ
- ▼関節拘縮
- ▼足関節の変形

診断

医師が足を検査し、関節の腫れや可動域制限、動きによる痛み、足関節不安定症などをチェックします。関節の変形や隆起をチェックすることもあります。レントゲン撮影にて関節の隙間が狭くなっていることを確認し、その程度を評価します。

非外科的治療

症状を軽減するため、以下のような非外科的治療から始めます。

▼投薬

消炎鎮痛剤を服用して、痛みと炎症を軽減します。症状の緩和のため、場合によってはステロイド薬を投与することもあります。

▼インソール

オーダーメイドのインソールにて足のバランスを改善して、疼痛緩和をします。

▼装具

動きを制限し関節をサポートして歩行時の痛みを緩和し、更なる変形を予防します。

▼関節内注射

抗炎症薬の注射を打つことがあります。

▼理学療法

運動にて筋力を上げます。運動で安定性や関節の代謝を改善したり、怪我を予防します。



外科手術が必要なとき

状態が著しく悪化したり、非外科的治療で状態しない場合は外科手術を検討します。かなり進行している時は外科手術しか方法が無いこともあります。手術の目的は、痛みの軽減と機能改善です。医師は患者様の状態やライフスタイルに合った最善の手術を選択します。

遠位脛骨骨切り術

脛骨（すねの骨）を切り、関節の傾きを矯正して関節を安定化させるために行います。

足関節固定術

進行した症例に用いられます。足関節を固定する術ですが、周囲の関節が動くことで日常生活は十分に可能です。

人工足関節置換術

進行した症例に用いられます。人工の関節で置換します。可動域が温存されますが、人工関節の耐久性には限度があります。